

自立の村づくり

長野県下條村長 伊藤喜平

1. はじめに

ご紹介頂きました長野県下條村の伊藤でございます。何か一言しゃべってくれというお話が国交省からあり、軽い気持ちでお引き受けした訳でございますが、田舎村長が急にいい格好したって無理ですので、田舎村長丸出しでやれば良いではないかと、意を決してここに参ったところでございます。

2. 下條村の概要

「下條村の行財政改革」と書かれた資料(12 ページ～)でございますけれども、私は、「行財政改革」という言葉はどうもしっくり来ておりません。今の小さな町村では、財政を健全化した後に行政をどうするか考えるという逆の発想でなければ、行政が前面に出て、積み重ねの理論でいたずらに肥大化してしまい、ややもするとコスト意識が希薄となり、につきもさっちもいなくなる傾向がありますので、私はできるだけ「財政改革」を前面に出しております。

さて、村の沿革でございますが、明治 22 年(1889 年)に合併し、今日まで 116 年間、単独村を維持しております。位置は、長野県の南端にありまして、ちょっと行くと愛知県・岐阜県・静岡県に面しております。全体の面積は 37 平方 km、山林面積は 69.4%でございますが、周辺の村ですと 98%にも達している村もあります。また、この地域には人口 800 人以下の村が 5 つあります。4,200 人の下條村は小さな村と思われるかもしれませんが、この地域では中核的な村ということになります。

金もない村ですけれども、今になってみますと、今日まで存続できたのは、何もなかったからかえって良かったのではないかと感じております。何もなかったのですが、私が村長に就任した平成 4 年(1992 年)から、全村民に危機感だけはしっかり抱いてもらうように心がけて来ました。

また、昭和 36-37 年(1961-62 年)の昭和の大合併の際、下條村は合併しないということで、議会も解散し、村長も辞任するなど、村中が相当紛糾したそうでございますが、これ以来、今日まで単独を保つことができたのは、本当の意味で適正規模で皆がまとまりを持ってきたということが良かったのかなあと感じております。

去年(2004 年)の 2 月、合併に Yes か No の意向調査を実施しました。「わからない」という回答が 20 数%ございましたが、残りを Yes か No で分けてみますと、5%が合併を考え

たらどうかという回答でしたが、あと 95%は今のまま単独で行きましょうという答えでした。

人口は、わずかずつですが、増えております。18 町村で構成している下伊那郡町村のうち、人口が増えているのは2つだけで、残りの町村は人口が減っております。下條村の人口は、放っておけば、グラフ(資料1ページ下)のだんだん下がっている▲の部分のような数字になったわけですが、おかげさまで4,200人を若干オーバーしたところです。35年ぶりに4,200人の大台を突破したということで、田舎の大きな話題となっております。

2ページの年齢3区分ですが、0~14歳が17.3%ということで、長野県で一番高い数字でございます。だいぶ若返ってきたと思っております。ただし、65歳以上の高齢化率が28.3%でございます。ちなみに、私どもの横の横の天龍村の高齢化率は48.5%でございます。今年はず50%にいくであろうと見込まれております。

保育園・小学校・中学校はそれぞれ一つでして、役場を中心に車でだいたい8分か9分くらいの半径の中に居住ゾーンがあります。そういう意味では、行政効率が良いと思っております。

3. 村長就任まで

私の生い立ちでございますけれども、私は、田舎で中小企業の経営者をやっておりました。昭和40年代後半(1970年)から50年(1975年)にかけて、人が特に減っていきました。「もう少し行政は活性化対策をしてくれなきゃ駄目じゃないか」ということを役場に掛け合っただのですが、当時の役場なんてものは、産業活性化なんてことは我々がやるべきものではない、役場がやることは、国で言われたこと、県から言われたことを、ゆっくりと、しっかりと、焦らず、たゆまずやるというムードでございました。人が減るということは、経営者にとっては、ユーザーも又優秀な人材も失うということで、正に致命傷です。

そこで、「このムードだけは変えなければいけない」ということで、議会の方に出させて頂きました。3期ほどやらせてもらったんですけれども、当時は、農業なりで功なり名を遂げて、そろそろ議員でもなるか、というような人が半分くらいおりました、どうもうまくいかない。議会の限界を感じ議員を退き、平成4年(1992年)に村長に出させて頂きました。

私どもの村は人口4,200人ばかりの村でございますけれども、なぜか政治家が多数出る風土がありまして、現在でも現職の県議会議員が2名出ております。過去には、自由民主党と社会党から2人の下條村出身の国会議員が出ておりました。選挙になると村がまっぴたつになる訳でございます。そういう中で私も、大変な選挙でしたけれども、どうにか当選させて頂いておるわけでございます。私は、議会も含めまして、過去7回選挙に出

ておりますけれども、無投票は一度もありません。「あれが出るんなら、こっちで必ず玉をだすぞ」という風土がございまして、これも善し悪しですけれども、常に村内に良い意味での緊張感があるというように良く解釈しております。

4. 役場職員の意識改革

村長になって、役場に入って実務をやってみて、予想はしていたものの、改めて愕然といたしました。

ここから先は、地方公務員の皆さんに対しては非常に厳しい言葉が出ると思いますが、私は皆さんではなく、長野県下條村の地方公務員に照準を当てておるわけでございますので、あまり感情を害さないように聞いて頂きたいと思っております。

私は、今日あって明日なき命の中小企業の経営者でした。毎日が真剣勝負でした。そこに働く従業員も真剣勝負でした。その従業員のパワーを10とするならば、私どもの地方公務員の皆さんは4か5くらいのパワーしか出しておりませんでした。もし民間の企業であれば3ヶ月くらいで倒産です。それが当然の事として今日まで来ていました。

これには色々な問題点があります。基本的には旧態依然の公務員組織にあります。コップの中の仲良しクラブ、行政のスピード・効率なんて事の意識は超希薄、前例踏襲、かかっただけが経費であり、そうした環境では、コスト意識・競争原理が全くといって良いくらい機能しない状態でした。トップにも大いに問題ありと考えます。公務員の本質である“全体の奉仕者”の自覚のもとしっかり目指すべき方向を定め、全員がその目標に向かって一丸となって進む気概が欠如していたと思っております。

私も、7月に当選してから12月まで、徹底的に注意したりしたのですけれども、50点が65点くらいにはなりましたが、それ以上はどうしても伸びません。前の村長はあまりガミガミ言わなかったのに、何故(伊藤村長は)やることなすこと駄目だ駄目だと言うのかと、不満に思う職員ばかりでした。

これでは駄目だと言うことで、下條村の職員が最も忙しい12月～1月の予算編成の時期、助役以下職員を11～12の組に分けまして、長いのは1週間、短いのは4日間くらい、飯田市のホームセンターに交代で行って全員に物品販売の店頭で立ってもらいました。そこに派遣された職員は、朝から接客態度や商品知識を教えられ、一日終わると、例えばその部所の売上げ目標70万円に対して今日の売上げは55万円しかない、どこに問題があったんだ、その原因は何かと言うようなことを毎日やられるわけでございます。また、お客様に商品を説明して、納得してお金を払ってもらおうということが、いかに大変かということが初めてわかったわけでございます。

国や県から来る金を、さも難しげに配る機会が多い職員諸君にとって、晴天のへきれきだったと思っております。いかにして金を稼ぐかということ、この苦しさつらさというのを嫌と

いうほど経験してもらいました。

当時は、この研修に対し、県から私の所に、民間のしかも物品販売会社に職員を研修に出すのは問題ではないかと相当きつい指摘もありました。14年間たってみますと、今、長野県の田中知事は“革命の風雲児”でございますが、ほとんどのめぼしい職員を民間に出してしっかり研修してもらっております。それだけ世の中が変わったのだと思いますし当然だと思っています。

5. 建設資材支給事業

そうするうちに、職員の見つきが変わりました。小さな村ですので、「おい、今までふんぞり返って目の輝きがねえ連中が、頑張り始めたぞ」ということになると、行政に対する村民の見つきも変わってくるわけでございます。「馬鹿なことは我々も言ってはおれんな」という機運になった時に、私は、何でも行政まかせの風潮で今日まで来た流れを、行政がやるべきものと、地域の皆さんがやってもらうものを明確に区分いたし宣言しました。

例えば、「〇〇をやってくれ」と、地域の代表者が村議会議員を連れて来るわけでございますが、工事金 200 万円以下位のもの—私も土木に関する資材業もやっておりましたので、だいたい土木のことはわかります—については、「この程度は下條村ではやりません」「私の任期のあるうちはしません」「どうか皆さん自分で汗をかいて下さい」「浮いたお金は巡りめぐって必ず皆さんの所に返りますから」と言って、かたくなにお断りいたしました。

田舎には夜暗い道が多く、月夜以外は歩けないような大変陰悪な雰囲気半年間位続きました。「選挙の時はペコペコ頭を下げておいて、村長になったら、これはやらん、あれはやらんと、とんでもない野郎だ」ということで、相当不評を買いました。

しかし、そのうちに、ある集落が、「村長にいくら言っても方針は変えないだろう、しからは自分達でやる。ついてはコンクリート 20 立方欲しい」という様なことが一箇所でおきました。そしたら、たちまち堰を切ったように、先ほどのビデオで紹介したような工事が村中で行われるようになったわけでございます。現在では、とんでもない雨や雪の日は除いて、生コン会社が営業している土曜日には、小さい村のどこかで集落の皆さんが当然の様に額に汗ながしてこの事業をやっております。

この建設資材支給事業には二つ大きな利点があります。

一つは、1/5~1/6 の経費でできるということです。費用は材料費だけで、あとは全部(村民の皆さんが)やるわけでございます。重機を使うような場合には、重機の所有者に燃料代のみ出します。これは金銭的にも助かります。

二つ目は、何よりも嬉しいことは、村民の皆さんの意識が全く変わって来たことです、昔は何をするにも行政まかせでございましたけれども、村民の皆さんが知恵を出して自分

で汗をかけば、次の日から集落は目に見えて良くなるわけでございます。その味を覚えてくれたこと、「なんだ、こんなことは簡単だからやりましょう」という気概が村中に生まれてくれたことは、金銭面よりも5倍も6倍も価値があると思います。

また、みんなが汗をかいて仕事やるようになると、何か村でボールを投げると文句ばかり言っていた人も、知らず知らずのうちに地域づくりに熱心な人達の輪の中に引き込まれ、集落で良い指導者として頑張ってくれるようになりました。

6. 役場職員の削減

役場の職員でございますが、最高は59名おりましたけれども、今、37名でやっております。この中に保育士と保健師がおりますので、実際は25名でやっております。総予算に対しての人員費比率は15.3%ということで、ダントツに低い数字です。皆何の抵抗もなく目標に向かって頑張っています。

「何でそんなに減らしたのか」「どのように減らしたのか」とおっしゃる方がおりますが、今まで50%の力しか出してない人に90%の力を出して頂ければ、人が余るということでございます。だから、新規採用はほとんどしておりません。

すると、「新規採用をしないと、その年代の間があくではないか。その時はどうするのか」という質問が来ます。しかし、行政はとんでもなく難しいものではございません。そうした時には、私はそれぞれの年代間の民間人をヘッドハンティングして役場に入れます。その皆さんの新しい力や、意見で組織を更に新生させながらやっていくつもりです。当然のことですが、職員は必要なときに必要なだけ採用するものと割り切っています。先の先の組織体制を整えるため採用するということは、私どものような規模の村では出来なわけで、正にスリム化した小さな行政体です。今日までこの方式で全く不便を感じたことはありません。

「行政サービスが落ちるだろう？」という質問もあります。私共の村では全然落ちません。人が多すぎますと、相手の人の職域に手を出してはいかん、足を出してはいかん、あの領分は絶対侵してはいかんということになります。少なくしておけば、職員はほとんどのセクションは経験しておりますので、「俺がやらなければ誰がやる」「あいつが留守ならば、自分がやる」ということになります。役場の職員が真剣にキビキビ対応してくれた場合、役場に何か用件があつてきた人は、「職員が良くがんばっているな」と肌で感じ、心の満足度を得るわけでございます。結果的には1分2分に時間が余分にかかっているかもしれませんが、民間のように本当に誠心誠意対応するというので、村民も充分満足してくれていると思っております。

職員を約22名減らしたことで、予算規模が20億円くらいの小さな村で、1億6,000万円くらいが浮くわけでございます。これらの人員費は、私どもの村としては今まで無駄だっ

たわけで、今振り返る時、まだバブルの余韻のあるうちから心がけて来て良かったかなあと思っております。

7. 合併処理浄化槽の導入

4 ページ、最後でございますが、私共の村では、平成2年(1990年)に上水道が完成した後、直ちに下水道の検討に入りました。当時、議長をやっておりました私は、「下水道処理等に関する委員会」の責任者として、1年間各地を廻り検討しました。そして、公共下水道はやめましょう、農業集落排水はやめましょう、合併処理浄化槽一本に絞りましょう、という答えになりました。当時はまだバブルが華やかな頃でございまして、国や県・コンサルから「何でそんなおもちゃみたいなことをするのか」とさんざん言われました。日本列島中がこのようなムードの時でした。

今、長野県では、下水道マップが出来上がっている地域でも、周辺部はほとんど合併処理浄化槽にと指導しております。厚生省も合併処理浄化槽を積極的に支援してくれています。

私は、その当時、農業集落排水や公共下水道の費用の荒試算をやってもらいました。当時は45億から50億かかるだろうということでした。皆さんもその道のプロの方がおると思いますが、だいたい下水道事業というのは、50%が補助金で来ます。あとの補助残は、30年間の元利償還で払うのがスタンダードでございまして。すると30年間で元利合計45億となり、丁度補助金分が食われてしまうわけです。

合併処理浄化槽は、機能的には何の問題もありません。村の負担は表にあるように全体でたったの2億2,444万円で済みました。加入者には18万円、その上を駐車場に使いたい人はプラス10万円出して頂きました。仮に公共下水道を45億で導入した場合、後年度負担が毎年1億5,000万円を30年間、そして人件費とメンテナンス費がかかるわけですが、合併処理浄化槽は事業費が極めて安く単年度精算のため後年度負担は一銭もございません。それに関わる職員も一人もおりません。これだけで毎年1億5,000万円が浮くということは、ある意味、歳入と同じでございまして、加入者の負担も軽く、村の財政も助かっております。

合併処理浄化槽は、野菜を洗って砂をじゃーじゃー流し込んだり、天ぷら油を一度に多くぶち込んだりすると、2年～3年毎に一度くらい汚泥引き抜きが必要になります。これには、2万から3万円かかります。ところが、管理が良い場合、8年間、一度も汚泥引き抜きをしたことがないところもございまして。正に自己管理、自己責任です。

8. 下條村の財政

3 ページの中程に「村づくりの指標」がございまして。財政力指数は0.221 でした、長野

県でも低い方から数えたほうが早いわけでございます。低い方から3分の1くらいです。経常収支比率は73.9ですので、残りの26.1は次の世代に向けて投資的経費いわゆる設備投資ができる余裕のある金ですよということで、住宅を建てたり、子育て支援等色々やっておるところでございます。

その下に記載の財政の健全度を示す記載制限比率は1.4でして、長野県の中では連続3年間トップの位置にあります。来年度につきましては、1.3という数字が試算されております。この数値には特別気を使っております。

起債残高は35億9,125万円です。これだけ借金があります。しかし、ご承知のように、交付税での補填等、法律で定められた数字を差し引きますと、純借金は9億7,000万円となります。これに対して、基金は27億2,360万円あります。払ってしまえば良いのですが、貸付金利が良いということで、国はなかなか受け取ってくれません。

9. 下條村の出生率等

生涯出生率は1.97人です。先ほどのビデオでスウェーデンの例が紹介されておりましたが、私も6~7年前にスウェーデンに行って参りました。所得税の35%を含め、何のかんのと税として取られる割合は当時57%位でございました。仮に1,000万円の年収のうち、570万円は何らかの形で吸い上げられて、あの福祉国家が出来ているわけです。サッチャー前のイギリスのように、働いて大金を取られるよりも、適当にやって税金が安い方が良いではないかという当時のイギリス病的風潮にもなりそうだという声も聞いて来ました。なかなかバランスは難しいものかなと思っております。

男子平均寿命は、80.1歳。これはたまたまこういうデータがでたのですが、当然県下1位、全国でも6位だそうです。原因はわかっておりません。

10. 人づくり

私は、今日までやってみて、やはり地域づくりというのは、全員でやらなければならないと同時に、基本は人づくりにあるということを感じました。その中で一番影響のあるというのはやはり教育でありまして、私どもは、学校教育にターゲットを絞りまして、今日まで、両校長先生をはじめ、先生方に大変理解協力を頂いております。

昔私達が子供の頃は、就学前の子供は、子供なりに家庭で、又、社会で最低の倫理観を体をもって教えられたものです。そして入学、このパターンでしたが、現代は少子化・核家族化で、家庭でも又一般社会でも子供に対し腫れ物に触れる様な風潮があります。この様な風潮の中で育った子供の入学する比率が多くなり、学校現場も大変です。そして、学校は「聖域」であり、携わる先生方は「聖職」と言う概念がいまだに残っています。先生方も勉強を教える情熱や技術は最高なれど、やはり転勤が宿命の職のため、一般社会に深

く入り込んで地域社会での真のシガラミ等に接する機会がややもすると希薄になりがちです。子供達が、こうした無菌状態に近いシステムの中を直通し、だんだんと成長し、好むと好まざるとに関わらず、ドロドロした競争社会に突入して行くと、余りのそのギャップが多すぎて、とまどい狼狽し、安易にフリーター又はニート等の選択をすることが多くなるのではと危惧するものです。

そこで、このギャップを埋め実社会にソフトランディングさせるには、当然、家庭・社会全般が学校を「聖域化」するのではなく、先生方と良く連絡を取り合い協力し合い補いあっていかねば、現世に耐える教育の完成は無いと思います。

そこで、私達は学校にお願いし、村を知り村づくりに積極的に参画する機会を出来るだけ作ってもらっています。例えば中学校の生徒会は、「村を考える」をテーマに、村の議会場を使って行われます。生徒達と先生とでテーマを複数挙げ、生徒達は放課後、約1ヶ月かけて現場に足を運んでそのテーマを踏査し、各資料を基に議会の場で村に提案して来ます。実に迫力ある議会になります。議会での村の答弁は当然ですが、数日置いて更に整理した文書にし、例えば、①の案件は1ヶ月以内に必ず要望に応えます、②の案件は県と打合せをするので3ヶ月位かかるが多分大丈夫でしょうという様に具体的に文書で生徒会長宛に返送します。そうすると生徒達は、財政状況厳しい中で、僕達・私達が調べ上げ提案した問題について、責任ある具体的な対応をしてくれたということで、こうした事をくりかえすうちに、村に更に関心をもち、知らず知らずのうちに彼らも村づくりの主役になって参ります。

今一つ例を申し上げますと、当村の中学3年生には村内の企業の訪問研修をしてもらい、生徒さんにその感想文を書ってもらっています。私は、それを読ませてもらうのを楽しみにしています。

ある年3年生の女子生徒の「お父さんごめんなさい」という作文がありました。それによりますと、その女の子は、お父さんは毛虫よりも嫌いと思っていたそうです。お母さんは一日農作業をした後、夕食の支度をしているというのに、お父さんは、仕事から帰ってくるとテレビの前に横になって、なにも手伝おうともしない。本当に駄目おやじだと思っていたそうです。その生徒さんがたまたまお父さんの勤めている企業を視察しました折、愕然としました。お父さんはチームリーダーとして7～8人の部下を従えて、あの重い安全靴を履き工場内で適確なる指示指導をし、走り回っている。あんなことを毎日8時間も9時間もやっていたら、お父さんは死んでしまうだろう、それを全然わからずに毛虫みたいに嫌いと思っていたに誠に申し訳ない、今更言葉に出しては言えないけれど、これからはだんだんと態度で示して良い関係を作り心より詫びたい、と作文には書いてありました。

こうした現実を仮に学校で教えろといっても、先生が黒板に書いても、活字を読んでも、その子は実態を理解できないと思います。その子がこれからだんだん成長し、下條村を出ることも残ることもありましよう。また、新たな世界に当然出て行くことになります。そうした時に、安易な誘惑もあるでしょう。又、厚い壁に突き当たることもあるでしょう。その時に彼女は、「お父さんも、お母さんも、村の皆さんも、そして村をあげて生徒会にも

注目してくれている。私がこんなところで横道にそれたり、少しくらいの壁に突き当たりへこたれていたら、ふるさとに顔向けできないじゃないか」と頑張ってくれると信じております。ふるさと愛を身体に満たした彼女はたくましくすばらしい人生を送ってくれると思います。

また、このようなことは、行政と学校が連絡を密に協力し合っこそ成果が出るものです。先生方も本当に良く理解していただいて、だんだん定着して来ています。これからも村づくりの基本として、このような取り組みを続けてゆきたいと思っております。

11. 終わりに

私どもは常に、村民総参加・町民総参加の村づくり、地域づくりなど日常よく言いますけれど、具体的にどこから踏み込むのかが問題です。当村、まず「隗より始めよ」という言葉通り、職員の意識改革を徹底して行いました。次に村民の皆さんにも知恵と汗をかいてもらって主役になっています。行政と学校・家庭・地域の連帯の中で中学生も村づくりの主役にならんとしています。私は、決して評論家ではありません。私どもの村が今日まで一生懸命取り組んで来たら曲がりなりにもこういう形になって来ました、ということをお話しさせて頂きました。

これからも皆さんからご指導頂きながら、何とか落後しないように皆さんの後をしっかりついてゆきたいと思っております。長野県の下條村というのがあったということだけを頭の中に置いて頂いて、これからも一層のご指導を頂ければ幸いです。

最後にこうして記念すべき会合でおしゃべりをさせて頂く機会を与えて頂いた関係の皆様方に心より御礼申し上げ、私の講演を終わりにさせて頂きたいと思っております。ご静聴ありがとうございました。

下條村の行財政改革

★ 下條村というむら

【村の沿革】

- ・ 明治 22 年 4 月 1 日 睦沢村、陽阜村が合併し、下條村となる。
以後 116 年間、単独村として今にいたる。

【位置及び地勢】

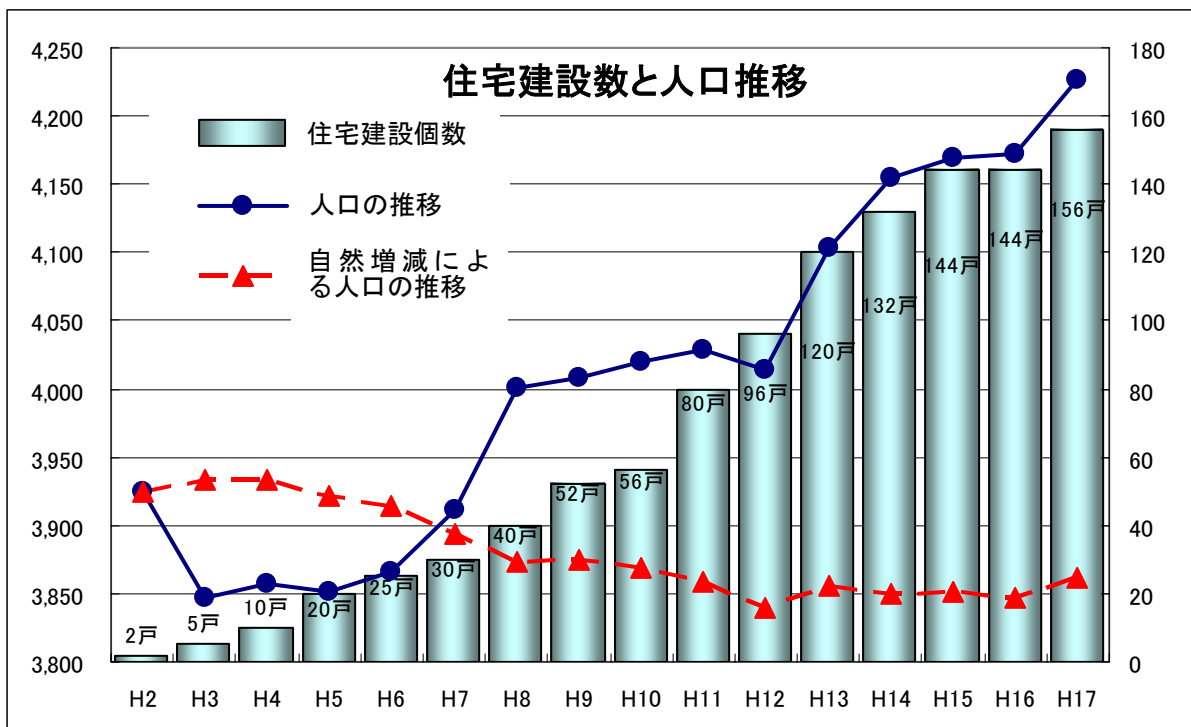
- ・ 長野県の最南端下伊那郡のほぼ中央に位置し、飯田市街や中央道飯田インターから時間距離にして約 20 分の距離にある。
(平成 19 年三遠南信自動車道天竜峡インターが供用開始予定。インターから 7 分)

【面積】

- ・ 全体面積 37.66 km²
山林面積：26.12 km²(林野率 69.4%)
耕地：4.39 km²
宅地：1.15 km²

【人口等】

	[H7年国調]	[H12年国調]	[H16年4月]	[H17年4月]
・ 人口	4,004 人	4,075 人	4,163 人	4,215 人
・ 世帯数	1,028 世帯	1,086 世帯	1,228 世帯	1,260 世帯
・ 高齢化率	25.9%	27.8%	27.8%	28.3%



【産業別就業】 [H12年国調]

第1次産業	第2次産業	第3次産業	
619人(27.0%)	719人(34.5%)	884人(38.5%)	総計2,299人

【年齢3区分別人口(比率)】 [H17年4月現在]

0~14歳	15~64歳	65歳以上
731人	2,290人	1,194人
17.3%	54.3%	28.3%

(県下第1位)

【保育園・小学校・中学校の児童生徒数】 [H17年4月現在]

保育園	1園	157人	9クラス	職員数	12名(調理婦2名含)
小学校	1校	280人	11クラス	職員数	21名(用務員1名含)
中学校	1校	147人	6クラス	職員数	16名(用務員1名含)

★ 役場組織

首長 伊藤喜平 任期 平成20年7月24日(4期)

助役 熊谷浩平

収入役 平成15年11月から設置しない

教育長 幾島賢

職員数 一般行政職 37名(H17年4月現在)

(内 保育士10名 保健師2名)

嘱託職員 23名

(内訳：学校給食調理員3名、学校公仕2名、司書補助1名、

保育士3名、保育所調理員2名、園児バス運転手1名

福祉員2名、温泉管理人4名、公園管理人2名、道の駅管理人1名

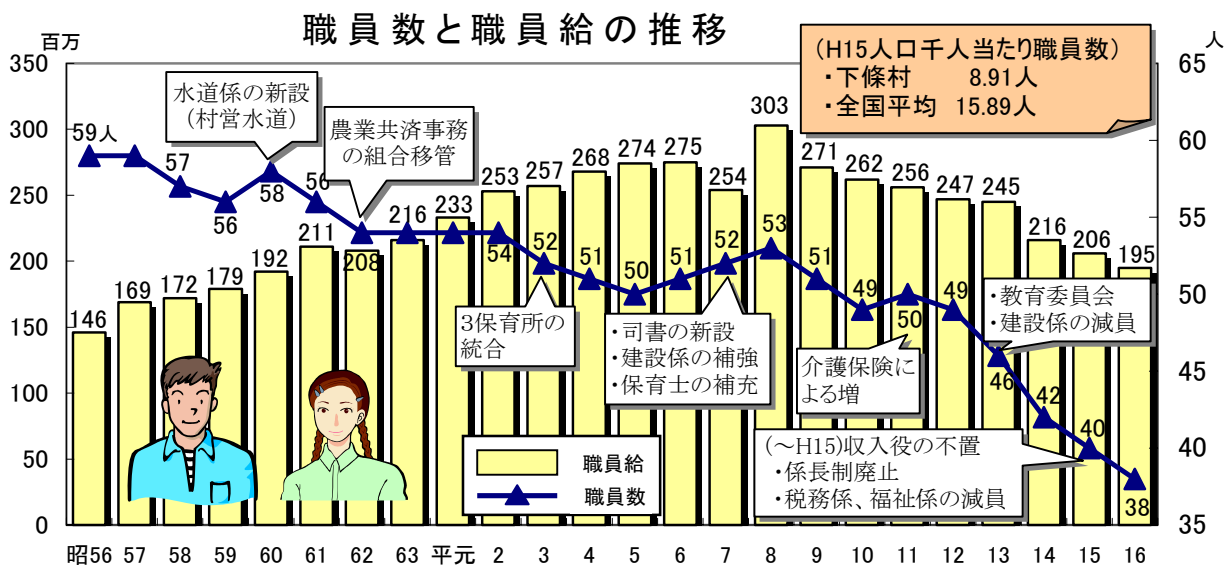
役場公仕1名、オフトークアナウンサー1名)

人口千人当たり職員数 (平成15年度財政状況調べより)

下條村 8.91人 類似団体 15.89人 (一般職員)

(56.07%)

経常収支比率(70.1%) 人件費比率(15.3%)



★ 村づくりの指数

【財政指数】(普通会計)

年 度	1 3	1 4	1 5	1 6
財政力指数	0.203	0.210	0.215	0.221
公債費比率(単年度)	10.0	10.2	9.9	10.8
経常収支比率 (%)	69.9	72.1	70.1	73.9
起債制限比率 (%)	2.8	1.6	1.7	1.4

(県下第1位)

【起債残高】

H16年度末 35億9,125万8,000円

うち、交付税措置分を引いた実質支払額9億7,019万9,000円

【基金現在高】一般会計基金分

H16年度末 27億2,360万円

【生涯出生率】

H10年～14年 1.97人(県下第一位)(全国平均1.29人)

H5年～9年 1.80人

【男子平均寿命】

80.1歳(県下第1位、全国第6位)

★下條村の上・下水道のとりくみ

1. 上水道事業

- ・昭和 60 年から平成 2 年までの 6 年間で完成
- ・総事業費 29 億 8,000 万円
- ・加入率 99.5%

2. 下水道事業

- ・平成元年から検討に入る。
- ・当時国県は、公共下水・農集排を積極的に推進

〔検討課題〕

- ・公共下水・農集排の建設費は上水道事業費の 1.5 倍はかかるといわれ、43~45 億円位かかると試算
- ・管渠の布設では、1m 約 10 万円くらい掛かりイニシャルコストは当然、ランニングコストも未来永劫アップしつづける。
- ・自己責任・自己管理意識の高揚を図ることができる。
- ・設置者の事情に合わせて設置計画が可能である。 等々

3. 下水道を合併処理浄化槽事業で行うことに決定

総事業費	6 億 3, 230 万円	829 基 (H2~H15) 計画	基数比 96%
村負担金	2 億 2, 444 万円	}	〔全額単年度処理、後年度負担なし〕
県補助金	2 億 393 万円		
国補助金	2 億 393 万円		

【例】7人槽の場合

総費用	691, 000 円 (定額)
国補助金	137, 000 円
県補助金	137, 000 円
村負担金	137, 000 円
村嵩上額	100, 000 円
設置者負担金	180, 000 円

4. 村の補助

- ・7 条法定水質検査料 12,000 円 (設置時 1 回のみ)
- ・11 条法定水質検査料 5,000 円 (毎年 1 回)
- ・上記検査料は、通常年間 400 万円になる。
- ・この他、平成 16 年度から保守点検料年間 21,000 円のうち半額を補助する。
(よって平成 16 年より村負担約 1,300 万円となる。)

★資材支給事業

1. 目的

この事業は、地域住民の生活環境を整備するために、住民自らが施工する工事に関し、村がその資材を支給する。

2. 該当工事

- ・ 村道整備：受益者3名以上の舗装、敷き砂利、側溝布設、横断工、甲蓋、グレーチング他
- ・ 農道整備：上記に同じ
- ・ 水路整備：受益者3名以上の土側溝の整備、漏水個所の整備、取水施設の整備他

3. 事業費

年間の予算 約2,000万円～3,000万円

建設資材支給事業年別実績表

年	総額	箇所数	内 訳		
			生コンクリート	砕石等(骨材)	二次製品
H 4	4,948,641		3,656,063	1,151,125	141,453
H 5	11,666,791		7,954,126	583,614	3,129,051
H 6	12,055,066	51	7,213,222	985,298	3,856,546
H 7	16,829,399	65	10,434,804	1,079,028	5,315,567
H 8	15,689,984	100	8,325,339	984,061	6,380,584
H 9	20,483,246	97	14,402,919	1,240,625	4,839,702
H10	31,907,551	114	23,323,124	1,004,276	7,580,151
H11	21,816,439	68	14,146,430	837,845	6,832,164
H12	16,695,638	77	10,231,620	727,962	5,736,056
H13	19,454,849	84	10,979,939	727,637	7,747,273
H14	19,402,386	78	12,972,648	768,811	5,660,927
H15	17,281,113	100	13,211,946	594,458	3,474,709
H16	16,266,159	83	10,392,531	545,423	5,328,205
総計	224,497,262	917	147,244,711	11,230,163	66,022,388

【活性化への取り組み】

平成 元年度	ふるさと体験館「コスモスの湯」建設
平成 2年度	全村水道完成（過疎地域指定から外れる） 合併浄化槽事業取り組み始める レストハウス「レスト秋桜」建設
平成 3年度	統合保育所建設 飯田カントリー倶楽部オープン （県内唯一のオールシーズンコース） 墓地公園整備 119区画
平成 5年度	リフレッシュパーク下條 極楽パノラマパーク 新井展望公園 小学校体育館 弓道場 建設
平成 6年度	村立図書館「あしたむらんど下條」建設 （県下第2位の利用率 17.0冊／人） ヤングコミュニハウス建設
平成 7年度	道の駅「信濃路下條」「そばの城」「遊牧館」建設
平成 8年度	ふるさと交流センター「うまいもの館」建設
平成10年度	刈谷市民休暇村「サンモリユ下條」オープン 下條親水公園建設
平成11年度	インドアスポーツセンター建設 分譲住宅40戸売り出し そばの館建設
平成12年度	医療福祉保健総合健康センター 「いきいきらんど下條」建設（水中運動が好評） 農産物加工施設建設
平成14年度	文化芸能交流センター「コスモホール」建設 （年間利用者 約15,000人）
平成 9年～ 平成15年	若者定住村営集合住宅建設 8棟100戸建設 7棟×12戸＝84戸 1棟×16戸＝16戸 一戸建て住宅 56戸 合計156戸
平成16年度	幼児から中学生までの医療費無料化

